

Port みなとの施設

Ports-
gateway
to the world

みなとは、
大自然の猛威から
わたしたちの暮らしを
守っています

平成7年1月に起こった阪神・淡路大震災では、道路や鉄道とともに、当時日本一、世界第6位の国際コンテナ港であった神戸港にも甚大な被害を及ぼし、わが国経済だけでなく、世界の物流にも多大な影響を与えました。

こうした地震の被害に備え、全国各地のみなとでは災害に強いみなとづくりが行われています。巨大地震が起こった場合、道路、鉄道などは陥没や脱線などの恐れがありますが、海上輸送であればそうした被害を受けずに安全に人や救援物資を運ぶことができます。

また、防波堤は、船舶の安全な停泊や貨物の積みおろしのために港内を静かに保つとともに、台風や低気圧による高潮や地震による津波の被害を最小限に食い止めています。

みなとは、私たちの暮らしを災害から守っているのです。

地震から守る



浮体式防災基地イメージ図



防災拠点のイメージ図



阪神・淡路大震災では道路や鉄道とともに岸壁も大きな被害を受けました。幸いにも耐震強化された岸壁だけは被害を免れたために、その岸壁を利用して救援活動を行うことができました。この経験を踏まえ、全国各地のみなとでは地震に強い耐震強化岸壁の整備を進めるとともに、緊急時に被災地に曳航し、救援活動を支援するための浮体式防災基地の配備を行うなどの災害に強いみなとづくりが進められています。

波浪から守る



低気圧や台風がたびたび訪れ、気象条件の厳しいわが国では、海が荒れる場合も多々あります。荒天時でも、波を防波堤が防いでいるおかげで、みなとの中では船が安全に停泊することができます。



チリ地震津波による引き潮(大船渡港)

地震多発地帯であるわが国では、地震によって生じる津波も私たちの生命や財産に多くの被害を与えてきました。昭和35年南米のチリ沖の地震で発生した津波は、地球の反対側にある日本にまで太平洋を越えて達し、北海道から沖縄までの各地に被害を与えました。

津波の被害を受けやすい岩手県の釜石港では、穏やかな海を維持するため、水深63mという世界最大水深の防波堤が設置されています。海上から見るとわかりませんが、この防波堤は高さが70m近い巨大なもの。強大な波の力を受ける防波堤は、たいへん強固に作られています。

